

	公表	事業所における自己評価総括表
--	----	----------------

○事業所名	小規模共生ホームひらすま児童発達支援事業所			
○保護者評価実施期間	令和7年10月28日 ～ 令和7年11月14日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)		(回答者数)	
○従業者評価実施期間	令和7年10月28日 ～ 令和7年11月14日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10名	(回答者数)	10名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年1月20日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	年齢や障がいに関わらずいろんな人が利用し、一人一人に寄り添った支援、個別対応をしている。	外出の機会や交流の場を持ち余暇活動を通して、色々な年代の方と楽しく過ごせるように支援している。自然な日常生活の流れを大切にしている。	自分から要望が言える人だけでなく、様々な人のニーズの把握に努める。スタッフ間で情報共有やコミュニケーションを積極的に行い、より良い支援を行うムード作りをする。臨機応変に対応する。
2	朝の打ち合わせを行い、スタッフ全体で情報共有を行っている。	薬の飲み忘れ等のヒヤリハットの対応としてアラームを導入したところ効果的であった。	遅出スタッフとの打ち合わせでも、ポイントを押さえて対応に変化はなかったか等の情報共有を行う。
3	年間行事やひらすま新聞を通して、地域の繋がりを持っている。	感謝祭やもちつきなどのイベントを地域住民や他事業所も巻き込んで実施している。また、その内容をひらすま新聞にのせて回覧している。地域の方への挨拶をかかさず行っている。	イベント時、地域の人との関わりを意識して支援する。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	同年代の友人がおらず遊べない	共生型サービス事業所であり、そもそも児童の利用人数が少ない。行動障害や医療的ケアなどにより個別対応のニーズが高い。	現在利用している児童は、スタッフや他の年代の方と関わりながら楽しく過ごすことが出来ているが、今後同年代の友人を作りたいというニーズが出てくる可能性もあり、対応を検討していく。
2	職員によって支援のやり方がばらばらで共通認識が不十分な事が多い	カルテを見返しても、細かい内容について記入漏れがある。スタッフ間ノートに様々な利用者の情報が書いてあり見にくい。	朝の打ち合わせで、しっかり情報共有できるように意識する。遅出スタッフとの打ち合わせでも、ポイントを押さえて情報共有する。
3	スタッフが少なく、業務に追われて利用者への対応が不十分になる時間帯がある	個別対応が必要な児童の支援を行っている。掃除などの雑用をする時間と児童の来所時間が被っている。	掃除などの業務的なことは、翌日などへ後回しにしても利用者への対応を優先する